

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 広徳 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

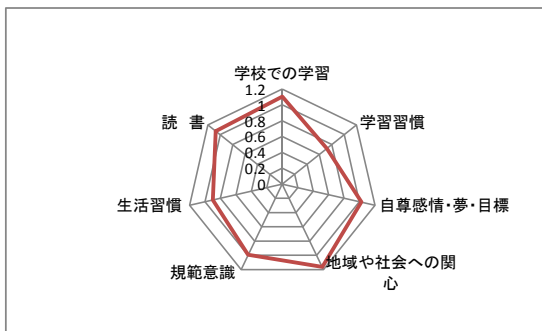
国語A	全体的な傾向や特徴など	B問題に比べて正答数が多い。無回答数も、全体的に少ないことから、解答しようとする意欲が高いことが分かる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	漢字を正しく読むこと。ことわざの意味を理解し自分の表現に用いること。	
	努力が必要な問題	漢字を正しく書くこと。考えの共通点や相違点について整理して話し合うこと。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	長い文章を注意深く読むことや読解力を付ける必要がある。要約することや、条件に合わせて、決められた時数で文章をまとめる力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして自分の考えをまとめること。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くこと。自分の考えを広めたり深めたりして発言すること。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	B問題に比べて正答数が多い。位をそろえて計算することなど基礎の計算力を高める必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	二つの数の最小公倍数。乗法で表すことができる二つの数量関係。	
	努力が必要な問題	加法や乗法の混合した整数と小数の計算。平行四辺形や三角形の底辺と面積の関係の理解。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	文章題の意味の理解や、資料の読み取りに課題がある。自分の考えを説明する記述問題や状況に応じた表現方法や文章力を付ける必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する。	
	努力が必要な問題	示された式の中の数の意味を理解し、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述する。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

学校の規則を守り友達と仲良く過ごそうとする児童が多い。家庭学習に関しては、学校から出された宿題については100%取り組んでいた。しかし、自分で計画を立てて勉強することや自ら課題を調べるなど情報を整理したり発表したりすること、自分の考えを説明したり文章にしたりすることに苦手意識を持つ児童が多い。自尊心が高く、夢や目標を持っている児童が9割を超える。学習習慣の向上を図りたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

国語科、算数科ともに、基礎的・基本的な内容の定着を図る為、朝自習で「わくわく算数タイム」「広徳漢字検定」の取組みを実施している。また、各教科において自分の考えを書く力や友達との交流する時間を設定するなど表現力の向上をめざしている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

毎日、決まった時間に就寝したり朝食を食べて登校したりしている児童が10%上昇している。地域や社会で起こっている問題や出来事にも関心を示してきている。地域とのつながりを大切にできるように活動を充実させている。家庭での国語の教科書や「ひまわり」の音読活動を継続するよう指導する。